

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。特に指示のない限り、句読点など文章記号は一字と数える。

手紙と違って時候の挨拶も要らず、電報のような字数制限もなく、はっきりした時間制限もないし、言い間違えたらその場で訂正でき、相手の反応を確かめながら話を進めて、返事もすぐもらえるなど、掛ける側にとって電話はたしかに便利だ。が、受ける側では話が違う。新聞のチラシや郵便物なら、目も通さずにそのまま捨てることもできるが、電話の場合は呼び出し音の音色では区別できない。受話器を取ると、無言というわけにもいかず、気の進まない話につきあわされるはめになる。しつこい勧誘をようやく振り切つて机に戻り、原稿の続きを書こうとする頃には、頭の中が三日前にさかのぼり、何を考えていたのかさっぱり思い出せない。

来客中に掛かってくる無遠慮な①電話については、内田百閒が随筆『虎の尾』で痛快な正論を述べている。他家を訪問しての対話中に、客である自分を待たせて相手が電話に立つと、電話に嫉妬し、②ものの道理を心得ないその主人に憤慨するという。電話の主がもし面倒でもその家を訪ねて用向きを伝えようとしたら、先客の話が一区切りつくまで待たされるだろう。それなのに電話線という針金を通しただけで優先順位が逆転するのは理不尽で、訳もわからず③文明の利器を恐れる未開人の仕打ちだと、割り込み電話の横暴を痛罵する。たしかに、電話が済んで主人が席に戻つて来ても、話の脈絡はすでに切れているから、用談なら初めからやり直しだし、④閑談を楽しんでいたのなら興味はどうに消え失せており、今さらやり直す気分にはなれない。

この便利な電話を発信専用にできたら言うことはないが、先方も同じことを考えるだろうから、そう理想どおりには運ばない。() ⑤ ()、という名文句があるのを、ひよいと思ひ出した。電話やメールばかりで済ませ手紙を書かないでいるうちに、いつか⑥手紙の作法を忘れ、きちんとした手紙が書けなくなり、そのうち手紙を書くこと自体が億劫になり、面倒になって書かないからますます書けなくなる。現代人はそんな悪循環に陥っているようだ。たしかに手紙は、書くのはわずらわしいが、もらうのはうれしく、読むのは楽しみで、心ときめく便りもある。電話と反対に、こちらはぜひとも受信専用にしたいが、先方も同じ気持ちだろうから、それでは文通が成り立たず、せつかくの名案も実現はむずかしい。

しかし、⑦手紙には電話にないよさも多い。電話とは違い、都合のいい時間に読めばいいし、読まない自由もあるから、押しつけがましい感じが少ない。電話では少なくとも一方の声は周囲に聞こえてしまいが、手紙はふつう一人で黙読するから自然に秘密が保たれる。面と向かつては言いにくい内容も、手紙なら比較的書きやすい。辛辣な批評も、手きびしい忠告も、逆に熱烈な讃辞も、あるいは口に出すときに聞こえる慰めや励ましも愛のことばも、手紙だと素直に伝わりやすい。相手と真つ向から対立する意見や主張を伝えるにも、途中で反論される心配もなく、最後まで自分の思いどおりに整然と話を運べる。

手紙も人と人とのふれあいだから、その形は生きていく時代とともに移り変わり、相手との関係に応じてさまざまな姿をとる。親しくなればおのずと型は崩れてゆく。それが自然だ。これ以上くだけると失礼になり、これ以上かしくまると⑧になる、その範囲でのびのびと書くのが手紙文の理想である。

快い対話がそうであるように、よい手紙は、非礼にならない範囲で水くさくならぬように調整する、その玄妙な均衡の上に立っている。書き手にとって大切なのは、相手を思いやる心と、そのしなやかなバランス感覚だろう。

(中村明『美しい日本語』)

問一 傍線部①「電話」の利点を述べている一文を本文中から探し、最初の五字を書け。

問二 傍線部②「ものの道理を心得ない」とはどのようなことか。次の文の空欄□に入る表現として最も適当なものを本文中から十字以内で抜き出して書け。

訪問客と割り込み電話の□こと。

問三 傍線部③「文明の利器」とあるが、ここでは何を指しているか。本文中から一語で抜き出して書け。

問四 傍線部④「閑談」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア おもしろい笑い話
- イ 親密な会話
- ウ 久しぶりに交わす会話
- エ 気楽な雑談

問五 空欄(⑤)に入る表現として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 手紙は相手の時間を奪い、電話は自分の時間を贈る
- イ 電話は相手の時間を奪い、手紙は自分の時間を贈る
- ウ 手紙は相手の都合を無視し、電話は自分の都合を押しつける
- エ 電話は相手の都合を無視し、手紙は自分の都合を押しつける

問六 傍線部⑥「手紙の作法」とあるが、手紙を書く際の書き出しと結びの組み合わせとしてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 拝啓―敬具
- イ 前略―草々
- ウ 拝啓―草々
- エ 前略―かしこ

問七 傍線部⑦「手紙には電話にないよさも多い」とあるが、手紙のよさについて説明した次の文の空欄 i } iii に入る言葉として最も適当なものを、i は八字、ii は二字、iii は十二字で本文中から探し、i と ii はそのまま、iii は最初と最後の五字を書け。

手紙は相手に対して	i	感じもあまりなく、周囲に対して	ii
iii	ことも相手に伝えやすい。		も守られ、

問八 空欄 ⑧ に入る言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 自分勝手 イ 慇懃無礼 いんぎん ウ 面従腹背 エ 他人行儀

問九 本文の内容に合っているものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 最近では電話でも誰からかかってきたのか受ける前にわかるため、電話におけるデメリットはほとんど無いと考えられる。
- イ 電話やメールばかりで済ませている現代人は、手紙を書くのが面倒になって書かないから、ますます手紙をかけなくなっている。
- ウ 相手と真っ向から対立する意見や主張を伝える場合は、相手の反応を確かめながら話を進められる電話の方がよい。
- エ よい手紙とは、水くさくならないように気を使いながらも、相手に失礼にならないように正しい型を守ることを優先したものである。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。特に指示のない限り、句読点など文章記号は一字と数える。

人工知能（AI）の性能がこのところ一気に高まっています。先月の「サイエンス」誌で発表されたニューヨーク大学のレイク博士らの論文も、AIの新たな可能性を示すものです。論文題名は、ずばり「ヒトに匹敵する（①）」です。

レイク博士らは、AIが苦手とする作業として「②分類力」と「③創造力」の二つを挙げています。一つ目の分類力は、モノをカテゴリーに仕分ける能力です。たとえばヒトは魚を見た時に、マグロの仲間、タイの仲間、タラの仲間などと、自然にグループ分けすることができます。

こうした識別は、本来はAIが得意とする作業ですが、ヒトと決定的に異なる点があります。必要とする情報の量です。AIは計算力にまかせて膨大なデータを読み込むことで分類方法を学んでゆきます。一方、ヒトは初めて見たものでも、その特徴に気づき、分類することができます。

二つ目の創造力は、すでに存在するカテゴリーのパーツを生かして新しいものを生み出す能力です。AIに創造力を発揮させるためには、専用の特殊プログラムを組む必要があります。その決まった範囲内ではうまく働きますが、想定を超えた幅広い場面で普遍的な創造力を発揮できるAIはまだ存在しません。

レイク博士らは今回、「文字」を対象とすることで、先の二つの問題点を解決しました。文字は分類力が試される分野です。同じ「あ」でも文字の形は④です。さらに「お」や「め」などの似た文字と混同しないために、ほかの文字にはない「あらしさ」を理解しなくてはなりません。

⑤レイク博士らのAIの驚くべき点は、単にこの難題をクリアして文字を識別するだけでなく、手書き風の文字を自ら書き出すことができます。

博士らのAIは、文字の形状を要素分析して「ヒトがどう手で書くか」の手順を推測します。ヒトの手の動きのクセを習得し、初めて見た文字でも、書き順を編み出して、スラスラと書くことができます。

書き損じも3%ほどありましたが、ヒトが同じ試験をしても5%ほどミスをします。また、ヒトが書いた文字と並べ、第三者に「どちらがAIが書いた文字か」を判定させましたが、当てられる確率は52%。つまり判別できません。ほぼ「ヒト並み」の文字を書くことができるのです。

これで驚いてはいけません。AIはある言語の文字を見るだけで、いかにもその言語らしい、違和感のない「新文字」を編み出すことができました。比較判定の結果、やはりヒトが創作した文字と区別ができませんでした。

⑥AIは、個々の文字の具体的な形状だけでなく、その言語に特有な「文字らしさ」という高次元の概念を持ち、素材を生かした作品を創造したわけです。もはやアートです。

専門的になりますが、今回のAIは、いま流行中の「※深層学習」ではなく、古典的な「ベイズ型」であることも衝撃的でした。用い方次第では、まだまだ旧式のAIでも高い能力を発揮し得るのです。要するに、AIを扱う人間が、いかに上手に仕上げ、能力を伸ばしてあげられるかがポイントだったのです。⑦ヒトの教育論に通じるものを感じます。

AIの新たな応用は驚くほど急速です。昨年には、相性のよい交際相手を選び抜くサービスが始まり、さつそく※合コンにも生かされています。となれば、AIが「手書き」のラブレターを代筆してくれる日もそう遠くないかもしれません。

(池谷裕二『脳はすこぶる快樂主義 パテカトルの万能薬』)

(注) ※深層学習 — 大量のデータをもとに自動で学習していく新しいAI技術の一つ。

※合コン — 二つのグループ(この場合は男性グループと女性グループ)が一緒に開催する飲み会。

問一 空欄(①)に入る表現として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア “能力”の発揮
- イ “学習”の推進
- ウ “分析”の応用
- エ “概念”の習得

問二 傍線部②「分類力」とあるが、モノを分類する際にヒトとAIで最も異なるものは何か。本文中から十字以内で抜き出して書け。

問三 傍線部③「創造」の対義語を次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 破滅
- イ 模倣
- ウ 維持
- エ 変革

問四 空欄④に入る言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 千差万別
- イ 千変万化
- ウ 千載一遇
- エ 千篇一律せんぺん

問五 傍線部⑤「レイク博士らのAIの驚くべき点」とあるが、それを説明した次の文の空欄①・②に入る言葉として最も適当なものを、iは二十七字、iiは十六字で本文中から探し、それぞれ最初と最後の五字を書け。

単に	i	ことができ、さらにはその言語らしさを備えた	ii	ことが
できた点。				

問六 空欄⑥に入る言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア そのうえ
- イ ところが
- ウ つまり
- エ なぜなら

問七 傍線部⑦「ヒトの教育論に通じる」とあるが、どのような点に通じているのか。本文中の表現を使って四十五字以内で説明せよ。

問八 本文の内容に合っているものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 最新のAIは、我々の想定を超えた幅広い場面で普遍的な創造力を発揮できるようになってきている。

イ レイク博士らのAIが書いた文字は、ヒトが書いた文字と比べても判別できず、ヒトとほとんど同じ文字が書けた。

ウ AIの世界では、いま流行中の「深層学習」を発展させた「ベイズ型」という新しいタイプができつつある。

エ AIは難しい研究分野であるため、その新たな応用は急速にはなかなか進まないというのが実情である。

受験番号

第一問

問一	手紙と違つ	5点
問二	優先順位が逆転する	6点
問三	電話	5点
問四	エ	4点
問五	イ	5点
問六	ウ	5点
問七	i 押しつけがまし	3点
問八	iii 面と向かっ言いにくい	3点
問九	エ	6点
問十	ii 秘密	3点

第二問

問一	エ	5点
問二	必要とする情報	6点
問三	イ	5点
問四	ア	5点
問五	i 文字を識別し書き出す	4点
問六	ii 違和感のなさを編み出す	4点
問七	人間もAIも、その力を伸ばしてあげ	10点
問八	イ	6点

※人間もAIも、の一文がなくても10点

解答例

10点